

薬処方患者の利便第一に

上越市

塚田 次郎(56)

小児科医師

報道によれば新潟大歯学総合病院では、敷地内に

「かかりつけ薬局をもち、複数の医療機関からの処方についても薬剤師が調整するなどの機能が期待されています。」

です。特に高齢者や小児など、移動が容易ではない「弱者」にはそうです。雪深い本県の事情を考えるとその必要性はさらに大きいと思います。

総合施設を建設し、さらにその中に調剤薬局を入居させる予定とのことです(本紙8月27日付)。

しかし、医薬分業では患者さんの利便性が損なわれ

初は医薬分業でしたが、患者さんの声を聞く中で院内処方に変更し、現在

このことは、独立性が求められる医薬分業の趣旨に

いのであれば、院内処方という方法もあります。

もし利便性を大切にしたいのであれば、患者さんにはとても喜ばれています。

反することは明らかであり、大きな問題になるでしょう。

一つの医療機関の中で診療と調剤を行う方法は、日本では昔から行われていま

大学病院も利便性の観点から、思い切って院内処方にするのも良いではないか

多くの医療機関はすでに医薬分業です。患者さんが

患者さんにとって優しい医療

でしょうか。